

美味しかった？ 健康状態は変化した？

## エゾシカペットフードの嗜好性等調査

犬の場合

犬と猫にエゾシカペットフードを与えて嗜好調査を実施。食べた時の反応や食べた後の変化について調べました。



### 犬はエゾシカ肉が好き!? 食欲・体調が改善した犬も!

調査の対象となったのはペットオーナー7名が飼育している1〜18歳(平均10歳)の犬で、オス5頭、メス5頭の全10頭。犬種はトイプードル3頭、ミニチュアダックスフント3頭、ゴールデンレトリバー2頭、バーニーズマウンテンドッグ1頭、ミックス1頭です。

エゾシカ肉の給与方法は、肉・穀類：野菜＝1：1：1で配合した手作り食を与えたのが57%、既製品に



図 1-1 嗜好性(犬)



図 1-2 給与時の食欲(犬)



図 2-1 健康状態の変化(便以外)

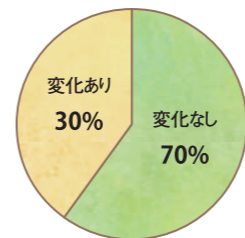
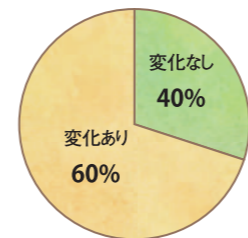


図 2-2 健康状態の変化(便)



トッピングしたのが43%。4週間にわたって給与しました。

エゾシカ肉をペットに与えた結果、図1-1、図1-2のように10頭中10頭(100%)が「好きな食材と考えられた(進んで食べていた)」、「提供してすぐ食べ終わった」と回答し、非常に嗜好性が高いという結果となりました。

給与した後の健康状態・体調(全身状態や毛づやなど、便以外)を聞くと、図2-1のように「特に変化なし」が7頭で、「変化あり」が3頭。「変化あり」の内容を詳しく聞くと、「食欲が増した」、「毛づやが多少良くなった」というコメントがありました。

また、便の状態については、図2-2のように「特に変化なし」が4頭、「変化あり」が6頭。「変化あり」の内容は、2頭が給与開始後1〜3日後と14〜28日後に、2頭が給与開始後14〜28日後に合計3回以上(最大5、6回)軟便を呈し、2頭が普通便であるが色が黒いというものでした。

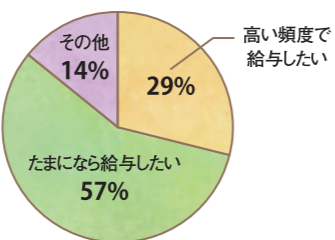
### 86%のペットオーナーが継続して食べさせたいと回答

対象となったペットオーナーに、エゾシカ肉またはその製品を今後も

給与したいかを聞くと、「高い頻度で給与したい」というオーナーは7名中2名(29%)で、その理由は食いつきが良い、便に不調がない、「たまになら給与したい」という回答は同4名(57%)で、その理由は、喜んで食べるため、高価格のため(たまにしか買えない)、というものでした。

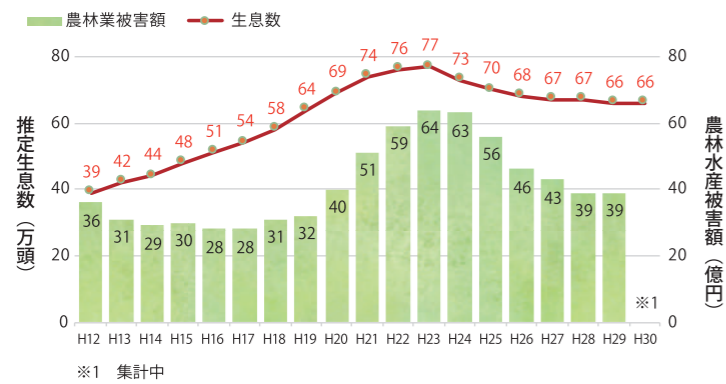
(図3)

図 3 今後エゾシカをPFとして給与したいか(犬)



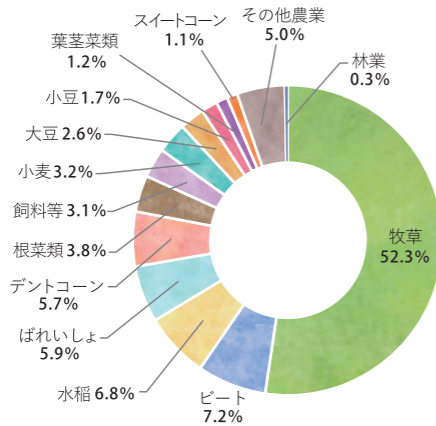
【調査実施期間】平成30年12月19日から平成31年3月29日

■エゾシカ生息数の推移



■エゾシカによる農林業被害額

39.3億円  
(平成29年度)



エゾシカコラム 1

エゾシカの生息数と農業被害

平成29年度の野生鳥獣(海獣類を除く)による農林水産業被害金額は47億円に上ります。鳥獣別に見ると、エゾシカが39億3千万円、次いでカラス類が2億7千万円、ヒグマが2億円、キツネが1億4千万円、アライグマが1億円。農林業被害では、全体の8割がエゾシカによるものなのです。

作物別の被害金額は、牧草が全体の5割を超え、次いでビート、水稻、ばれいしょと続きます。特に被害額が増加しているのが牧草、水稻、ばれいしょ、デントコーン、大豆、小豆、葉茎菜類、スイートコーンです。こうした被害に対し、北海道はエゾシカの捕獲活動や侵入防止柵の整備など、総合的な対策を施し、推定生息数は減少に転じています。被害金額は平成23年度の64億円をピークに年々減少し、現在は4割程度まで被害が減少しています。

図4-2 給与時の食欲(猫)

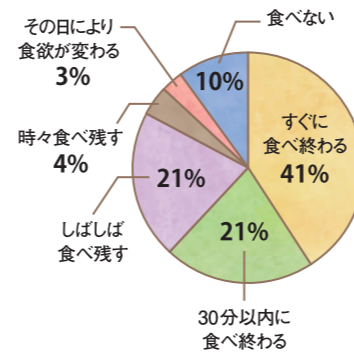
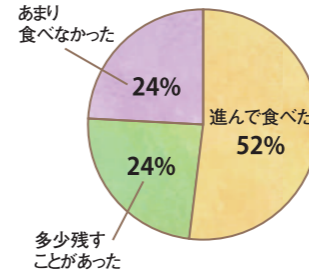


図4-1 嗜好性(猫)



調査対象となったのは、道内の動物愛護団体及び自宅で飼育している29頭。年齢は0歳〜10歳(平均4.8歳)の成猫で、性別はオス16頭、メス13頭、体重は3〜7kg(平均4.5kg)。種類は全てミックス(雑種)。いつもの食事や置き餌に混ぜたりのせたり、または、おやつとして1日10g程度を1週間給与しました。

好き嫌いが多い猫も52%が進んで食べた!

猫の場合



エゾシカペットフードの嗜好性等調査

図5 今後エゾシカをPFとして給与したいか(猫)

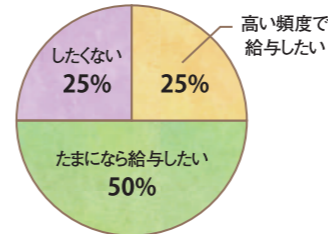


図4-1によれば嗜好性について一番多かったのは「好きな食材と考えられた(進んで食べていた)」が29頭中15頭(52%)でした。また、「好きではないが食べる食材と考えられた(多少残すことがあった)」が同7頭(24%)、「好きではない食材と考えられた(あまり食べなかった)」が同7頭(24%)。食欲について一番多かったのは図4-2のように「すぐに食べ終わる」が29頭中12頭(41%)、「30分以内に食べ終わる」が同6頭(21%)でした。一方、「時々食べ残す」、「しばしば食べ残す」、「食べない」が合わせて同10頭(35%)、食欲が増したのか判断がつかない「その日によって食欲が変わる」が1頭(3%)という結果でした。健康状態・体調(全身状態や毛づやなど、便以外)は、すべての個体で「特に変化なし」。便の状態も、回数や量が減ったのが各1頭で、その他は「変化なし」でした。ペットオーナーからも「今後も給与したい」という回答が多く、満足度が高いものでした。(図5)

ヘルシーで体にいいって本当？

# エゾシカペットフードの成分分析

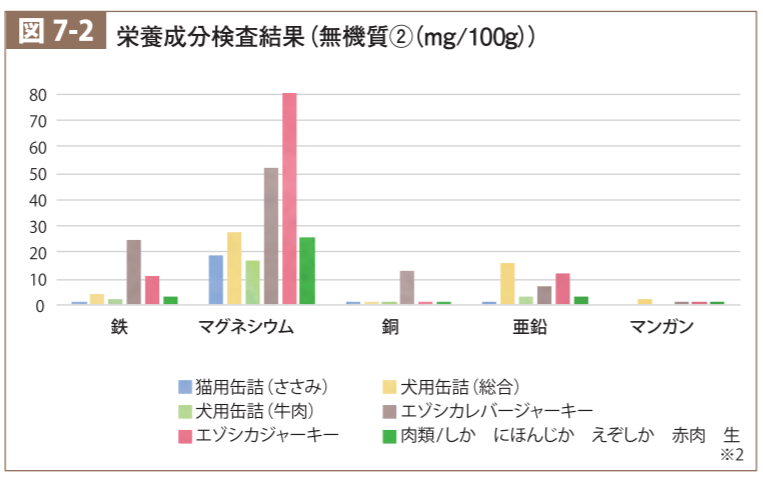
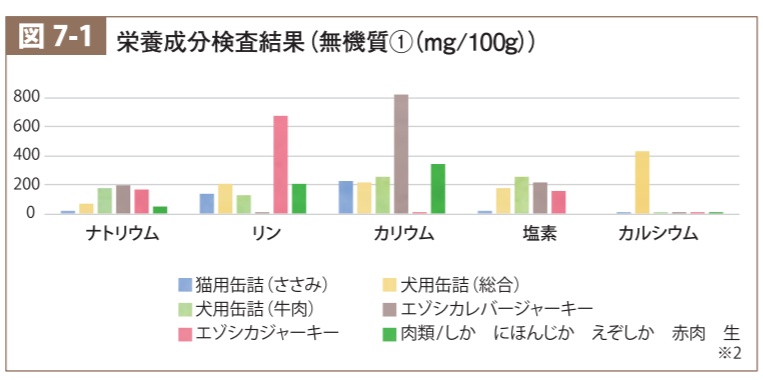
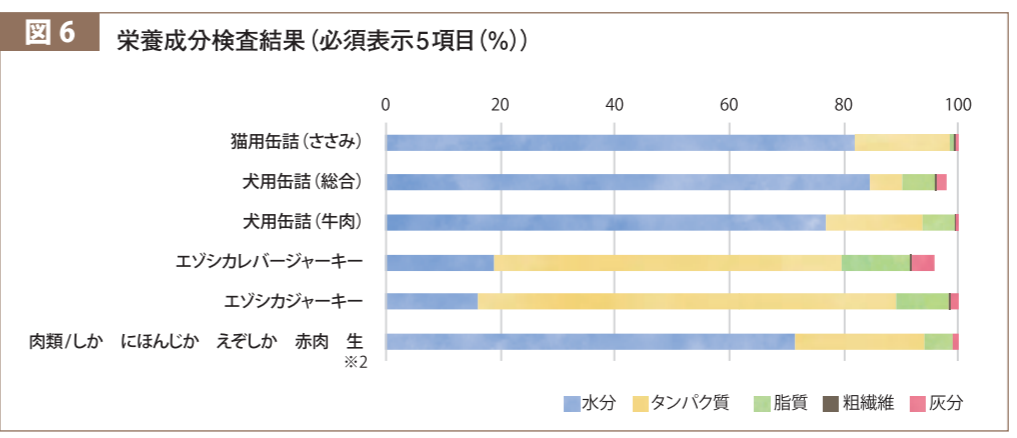


エゾシカペットフードの成分を分析。他のペットフードと比べてどんな特徴があるのか、栄養成分検査で比較しました。

## エゾシカジャーキーは高タンパクが特徴

エゾシカを原料とするペットフード2種(ジャーキーとレバージャーキー)と、他の家畜肉を原料とするペットフードの猫用缶詰(主要原料: ささみ)1種と、犬用缶詰(総合栄養、主要原料: 牛肉)2種の成分を分析し比較しました。

ペットフードの表示に関する公正競争規約第4条で必要表示事項とされている5項目(水分、タンパク質、脂質、粗繊維、灰分)について調べると、エゾシカのジャーキー2種が乾燥している製品であることから、他のペットフード(缶詰製品)と比べて水分が1/4~1/5となっており、水分以外の成分については、特にタンパク質の割合が高くなっています。(図6)



無機質10項目については、リンとマグネシウムはエゾシカジャーキー、カリウムはエゾシカレバージャーキーとエゾシカ赤身肉、カルシウムと亜鉛は犬用総合缶詰が高い数値でした。(図7-1、7-2)

アミノ酸18項目については、エゾシカジャーキー2種が全般的に高い数値となりました。(図9※次ページ)

脂肪酸2項目については、リノール酸はエゾシカレバージャーキー、犬用総合缶詰、エゾシカジャーキーの順に高く、アラキドン酸はエゾシカジャーキー2種が高い数値でした。(図8※次ページ)

ちなみにエゾシカ生肉(赤身)の栄養素は、日本食品標準成分表2015年版(七訂)追補2017年によれば、高タンパク低脂質のほか、主要ミネラル(Ca、P、K、Na、Cl、S、Mg)では、リンやカリウムが、微量ミネラル(Fe、Cu、Zn、Mn、Se、F、I、Co)では鉄の含有量が多くなっています。